



県庁舎耐震化整備  
事業費約百七十億円

昨年十一月下旬に岡山県の県庁舎耐震化整備の事業化(案)の説明がありました。

本庁舎の耐震化工事は百四十三億円と見込まれてきたなかで、近年増え続ける天災を受けての国のガイドラインを踏まえ、幾つかの大きな変更を行っていく考えが示されました。そのなかで二点について報告します。

一つは、主力電源の並列化であります。万が一の時に備えて、一つの電源が落ちても、もう一つの電源で本庁舎の機能を維持させるようにします。一つの電源の容量については元の容量の七十%とします。合わせて、百四十%となり、通常時においても電源に余裕ができるようになります。

もう一つは、空調動力源の複数化です。これまでは動力源が一つであったために、部分空調が出来なかつたのですが、部分空調が可能となります。初期投資は増額となりますが、空調による年間消費電力は約四割削減できると見込んでいます。

非常時のこと、環境のことなどを踏まえて、どちらにも必要なことです。この機会にしておくべきことです。

それでは総事業費はどうなるのでしょうか。この点が大いに気に掛かります。今回の見直しで、百七十億円弱まで大きく異なります。これは本当に気になります。財政厳しいなか、圧縮出来る所は圧縮していかなければなりません。



耐震化工事が進められる県庁本庁舎

十一月定例県議会を振り返って

昨年十二月六日に登壇し、「産学官連携」、「教育問題」等について一般質問を行いました。伊原木知事は「産業振興」と「教育県岡山の復活」を政策の中心に置き県政運営されています。その産業振興を加速させるべく、そのエンジンとなる「産学官連携」に焦点を当てました。また、第五世代移動通信システム(以後、5Gと略します)の取組、病院再編、独自入試と補習料についても取り上げました。質疑の内容は次の通りです。

1 産学官連携の取組について

神戸市は日本最大のバイオメディカルクラスターを整備で発展中

岡山県の産学官の取組に触れる前に、神戸市と北海道の取組について紹介致します。

まず神戸市です。神戸市は、平成七年一月に発生した阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた神戸経済再建のため、地元神戸大学はもとより、京都大学、大阪大学の各医学部に協力を呼びかけ、産学官連携の震災復興事業として「神戸医療産業都市構想」に取り掛かりました。そして、約二十年後の平成二十九年十二月には、約三百

五十の先端医療の研究機関、高度専門病院群、企業や大学の集積が進み、日本最大のバイオメディカルクラスターに成長しています。

北海道は先端研究開発拠点育成で社会課題解決に全力投球

もう一つは北海道です。平成十一年に発表された北大リサーチ&ビジネスパーク構想の下、ネットワーク、ワーキングステージと段階を踏んで、二十年弱で、北大キャンパスと道の土地を含む周辺エリアに、十六の研究施設等が入る良好なりサーチ&ビジネスパークを建設整備。そこでは健康科学・医療融合拠点形成や航空宇宙産業育成、IoT・ビッグデータ、AIの

最先端技術を活かした社会課題解決等への取組が行われています。北海道に留まらず、日本を代表する研究開発拠点になろうとしています。



北海道大学の中に北海道立衛生研究所もあり、立地的にも、大学と道庁が連携しやすい環境を作っています。

岡山県はリサーチパークと吉備高原都市の整備

それでは、岡山県はこれまでどのような取組をしてきたのかと言いますと、岡山リサーチパークを



岡山リサーチパークインキュベーションセンター

整備し、ここに岡山県産業振興財団、岡山県工業技術センター・テクノサポート岡山、岡山大学の産学官融合センター、岡山リサーチパークインキュベーションセンターと民間企業十八社が立地されています。

新しい産学官連携組織の立上げ

どちらも岡山県を牽引していく拠点には成りきれておらず、この点が大きな課題です。私が、両エリアの中にある組織・団体を十分連携させることができれば、この課題を克服することができると考えていたところ、昨年十月に岡山大学内に県内の企業と大学の連携を包括的にコーディネートする「企業と大学との共同研究センター」を岡山県が立ち上げられました。

ここは共同研究の立上げや企業人材育成を前面に出して、ここが力を入れるべき所は、私は、本県が力を入れるEVソフトや保健相サミットが開かれるなど全国から評価の高い医療等の分野ではないのかと考えています。その点を提案した上で、岡山県の産学官連携の目的と対象範囲を産業労働部長にお訊ねしました。回答は、

目的が「大学などに集積する高度な知見を企業が活用し、技術課題への対応力の強化や新技術・新製品の創出などに結び付けることにより、地域の活性化を図ること」とあり、対象範囲が「基本は県内」ということでした。神戸市が都市構想を示して、全国で産学官連携を図っていることに対して、本県

は、大学のシーズの活用を重点を置いて、県内企業と産学官連携を図ろうとしています。どちらが良いとか言える問題ではありませんが、岡山TLO(過去に岡山県が作った産学官連携を図る組織)の教訓は生かすべきです。岡山TLOは国からの予算がなくなると、平成二十四年に事業が終了しました。こうなつてはいけませんので、収入の仕組みはどのようにしているのか、産業労働部長に次の質問をすると、国からの予算は五年間との返答。岡山TLOの二の舞にならないようにして欲しいと要望すると、その五年間で、持続的な運営が出来るようにしていく趣旨の答弁でありました。このセンターはスタートしたばかりで、これから期待をしたいと思えます。

岡山県立大学の取組

そして、もう一つ、産学官連携を推進している機関が岡山県立大学の中にあります。名称は産学官連携推進センターです。立ち上げられたのは平成十九年です。ここも取り上げました。

どのような取組をしているかというと、「産業界のニーズに対応した自律的な技術者養成プログラム」のテーマの下、産官と連携して行う取組を「産学官連携によるデザインナーの巣づくりネットワーク」と名付け、プログラム実施の拠点「サテライト・ラボegg」を中心とした様々な活動も行っています。ホームページで紹介されています。

聞いているとの回答。冊子にして公開されている取組は余り多くなくないので、県民にもっと理解されるようにして欲しいと要望しました。



**県民が希望を持てる事業を**

そして、神戸市や熊本県は、ともに大きな自然災害を教訓に、テーマを掲げて、産学官連携をして直向きに復旧復興に取組んでいることを紹介し、本県も昨年度に甚大な被害をもたらした災害からの復旧復興に取組んでいるところですが、被災前の状況に戻すだけでなく、これをバネに産学官連携での取組を更に進めることが重要との考えを知事にぶつけました。その上で、神戸市における震災からの復興のシンボルである「神戸医療産業都市構想」事業等のように、岡山県も、昨年被災をして、その経験を踏まえ、県民に希望を持つてもらえるような産学官連携事業は考えておられるのか、知事にお訊ねしました。知事からは、「斜面崩壊の兆候を検知するシステムの開発など災害を踏まえた取組が産学官連携により進められている」との回答がありました。もう少し踏み込みみたかったのですが、若干の要望で今回は留めました。復旧復興も今年三年目、復興が実感できる取組も必要だと考え

ています。今年も皆さんが希望を保持する岡山県になるように頑張ります。

**2 第五世代移动通信システム(5G)への対応について**

今回、スマートシティについて具体的に伺いました。最近、この分野の進歩が目覚ましく、最先端は「ICT・データ活用型スマートシティ」というらしいです。方向性としては、「環境」「エネルギー」「交通」「通信」「教育」「医療・健康」等、複数の分野に幅広く取組む「分野横断型」となってきました。先日、自民党は令和元年度補正予算案に盛り込む経済対策の要望を政府に対して行いました。5G移動通信システムの早期普及も重点項目の一つとしてあげ、未来への投資としての重要な政策との位置付けにさせていただいています。

また、東京都と大阪府・大阪市もスマートシティ実現のため、国に対して規制緩和を求めるなど連携を進めており、他にも、福島県会津若松市の「スマートシティ会津若松」、千葉県柏市の「柏の葉キャンパスシティ」、神奈川県藤沢市の「Fujisawa S-CITY」、愛媛県松山市の「スマイル松山プロジェクト」、熊本県熊本市の「スマートひかりタウン熊本」などが各地域で取組まれています。そして、こうしたものの中には、総務省の5G総合実証試験の予算を活用している所もあります。本県も、こうした国の予算を活用しながら、遠隔医療・救急医療、県職員のテレワーク環境の整備、県管理河川等の監視、被災地の情報収集等、スマートシティに関する施策に取組んで行く考えはないのか、知事にお伺いしました。

知事からはスマートシティに関する各地の事例も参考にして、今後の取組について研究したいという回答を頂きました。まだこれからということになりますが、これからに期待をしたいと思えます。

**3 病院再編について**

今回、取り上げた理由は、今年九月、厚生労働省からの「再編・統合を必要とする全国四百二十四の公立・公的病院の公表」について、その公表の仕方に問題もあり、全国の自治体や病院関係者から批判が相次ぐなか、どうなるのか心配の声が増えてきていたからです。私の考えは、この病院再編は社会保障制度を維持するためには避けては通れない道であり、住民が困らないように配慮して行っていくというものです。

それでは、どうすれば県内三十四ある公立・公的病院は存続できるのかを考えなければなりません。前公立病院改革ガイドラインと新公立病院改革ガイドラインでほぼ言い尽くされています。しかし、それを取り入れることが出来ない病院もあり、この度、国より、経営分析の精度アップ、病院マネージメント面からの事務局強化、経営形態の見直し、再編・ネットワーク化など、その取組の組み合わせや方法論が提示されたのです。特に病院再編・ネットワーク化は、医療機能の分化や地域での医療資源の最適化を目指すもので、人口減少や過疎化が進む中で、医療機関の共倒れを防ぎ、持続可能な医療提供体制づくりには欠かせないものです。全国各地で医療機関再編が進んでいます。そのなかで各都道府県とも自らの地域の実情に応じた医療体制整備を目指し

ています。このような流れが公立病院を持つ自治体の考え方を変えるきっかけになればと期待をしています。しかし、待っているばかりでは進まない怖れもあります。

**4 高校の現場で働き方改革について**

私は、この問題を前進させるためには医療全体を俯瞰できる県の役割が重要だ、と考えています。医療改革により「財源」と「提供体制のガバナンス権限」と「責任」が与えられた知事には、地域医療全体最適経営の観点から、患者の皆様・県民の皆様から安心して頂ける医療体制構築の先導をされることを期待していることを知事に申し上げました。

岡山県では、高校入試において、独自入試を選択できる仕組みになっていきます。この準備については、導入校の先生に沢山の時間とエネルギーを求めることになります。独自入試作成にあたる教員の負担軽減のため、非常勤講師が配置されていると聞いていますが、研究費については予算に計上され

ていません。また、補習科制度導入校では、通常の職務へ上乘せとなります。予算計上もないと聞きます。この岡山方式は、現場の先生の熱意に頼る制度となっています。

**5 学校の現場で働き方改革について**

北海道の公立高校入試では、学校裁量問題を学校の判断で選択出来る仕組みになっています。この「学校裁量問題」は二〇〇九年三月から始められています。英数国理社の五教科試験のうち、英数国の問題において、全道一律の「標準問題」とは別に「思考力・応用力」を重視した難度の高い問題が準備されています。岡山県の独自入試は学校が準備するのに対して、こちらは教育委員会が準備しているのです。こうしたやり方を導入するお考えはあるのか、教育長にお伺いしました。

また、補習科制度については、現在四校で実施されていますが、最近の社会情勢の変化を踏まえ、見直しを図るべきと考えますが、いかがか、教育長にお訊ねしました。教育長からそれぞれの回答をいただきました。まず、独自入試について、特別入試選別、一般入学者選抜の第I期と第II期、さらに昨年度から追検査の問題を作成しているところであり、難しいとの回答。もう一つの補習科については、PTAからの要請を学校が受けて、行っているものであり、校務への支障がない範囲で行われているものであり、過度の負担にならないように努めていくとの回答でした。どの学校もやるべきことが増えているなかで、どちらも学校の裁量に任せる制度であることを教育

長は認めました。この点に関して、私の想いを少し綴らせて頂きます。質問で取り上げた件のように学校の裁量に任せられていながら、人の配置や予算が十分確保されていないことは、高校だけでなく、小中学校などでも多くあると感じています。

**6 学校の現場で働き方改革について**

現在、新教科の導入等が進められるなか、働き方改革で研修時間の確保が十分に取れないというのです。小中学校に関しては、教育は「ゆとり教育」からの脱却ということで、教える量が増えています。また、高校も大学入試改革で「授業の在り方」が見直されています。

一方、先生には、働き方改革で、残業はしないようにしようという動きになっています。これは明らかに矛盾することです。この矛盾を解消するべきところ、現在、この矛盾は大きくなっているように感じています。先日、現場から、その声を聞かせて頂きました。こうした問題を解決しなければ、子どもたちの学力向上等に現場の力が向かっていかなければいけません。個々の問題の解決をすると同時に、こうした大きな矛盾をどう解消するのか、政治の役割はとて大きいと感じています。





てくてくまさたか

天皇陛下御即位奉祝神事

(吉備津彦神社) 十月二十二日



天皇陛下御即位奉祝神事において、石見神楽が披露されました。

小田川付け替え現場視察

十月二十三日



工事は五年間で約五百億円の見込みです。円の内訳は約五百億円です。

災害廃棄物処理現場視察

(水島の環境事業団管理地内) 十月二十三日



見込みより多い被災地からの廃棄物量となっていますが、地元企業がマニュアルに従って処理しています。

児島湖縮切堤防視察

十月二十三日



農林水産省によって耐震化工事が進められる児島湖縮切堤防を視察。約十年の工期で、予算約二百六十億円をかける予定となっています。

吉備陵南まちなかど博物館

十月三日



私は松林寺で足守川の河川改修の状況についてお話をさせていただきました。



北大リサーチ&ビジネスパーク視察

(北海道大学内) 十月三日



(参考)十一月定例県議会一般質問を振り返つての産学官連携

旭川市科学館・サイパル視察

十月六日



子どもたちの好奇心を満足させることができる場所でありました。



北海道教育センター

十月七日



北海道教育センターにて科学実験の移動バスを見学。静電気現象、超電導現象、電子顕微鏡を使つての観察などができるところになっていました。見学しながら、このクルマが来た時の子どもたちの喜び顔が目につきました。

一宮公民館文化祭

十月九日



搦き立てのお餅は粘りがしっかりあって絶品でした。

高松公民館文化祭

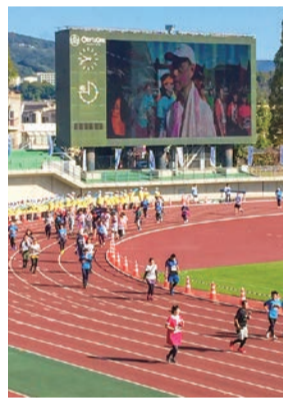
十月十日



手作りの古墳カレーは味もとても良かったです。

おかやまマラソン大会

十月十日



約一万六千のランナーが走りました。日本の中で有数のマラソン大会に成長しました。

職業能力開発促進大会

(コンベックス岡山) 十月十二日



優れた技能を認められた方が表彰されました。

第二十回日本拳法

岡山県総合選手権大会 (岡山商科大学) 十月十七日



大安寺中等教育学校 創立十周年記念式典

(岡山シンフォニーホール) 十月十九日



もぎゅわんH.A.

(コンベックス岡山) 十月二十四日



パソコンに小さい子どもが向き合っていました。子どもはゲーム的なものが好きなのです。他にも、塗装体験、洋裁などのコーナーが設けられていて、多くの人が参加していました。

渋野日向子さんが 県庁を訪問されました

(岡山県庁) 十月六日



県の表彰を受けるために県庁を訪れるプロゴルファーの渋野日向子さんを待つ県民で県庁前広場はいっぱい。

私は、県議会の行事で、残念ながら、お会いすることはできませんでした。

平田地区防災協議会講習会

十二月七日

平田地区防災協議会が講習会を開催。私もパネルディスカッションのパネラーとして参加しました。



東平野南町内会集会所落成式

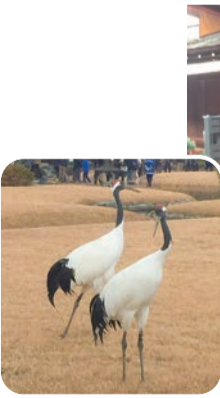
十二月十五日



石井学区スポーツ少年団 ソフトボール大会 十二月二十二日 寒さに負けず、元気なプレーを見せてくれました。

タンチョウヅルの後楽園の園内散策

一月三日



初せり(岡山中央卸売市場)

一月五日



岡山の台所が稼働開始しました。ここから新鮮で美味しいものが私たちのもとに届きます。

吉備中央町新春互礼会

一月五日



編集後記

このところ米中の緊張関係が続いている。情報通信分野での制裁は記憶に新しいところである。私たちは、この米中関係悪化の巻き添えに遭いたくないという気持を持つのは普通感覚かもしれないが、イランとの関係で日本は複雑な立場にあるのだ。

昨年十二月下旬にイランのロウハニ大統領が、安倍晋三首相と会談するために訪日した。この会談後、ロウハニ大統領はツイッターで「エネルギー部門を中心とする経済交流の促進や石油輸出の増加につながるあらゆる取組を歓迎する」と語ったと報道されているが、そのイランのある中東に中国は急接近中であることを忘れてはいけない。この「あらゆる取組を歓迎する」との言葉は、立場が変われば、受け取り方も変わり、日本の立場はさらに微妙なものとなっていく。そして、現在アメリカとイランの関係は最悪の状態である。今年には東京オリンピックの年であり、日本が世界平和に貢献する年になるように祈りたい。(MO)